

# 令和3年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

岐阜県立多治見高等学校 学校番号 43

## I 自己評価

1 学校教育目標	自ら未来を切り拓き、社会に貢献できる人物の育成 (1) 一歩前に踏み出す行動力 (2) 粘り強い探究力 (3) とともに高め合う協働力	
2 評価する領域・分野	◇教務	
3 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全ての授業が少人数で行われているが、アンケートにおいて「習熟度・少人数教育」に関しては、生徒及び保護者の満足度はいずれも上がっており（14）、少人数教育の効果が認識されていると思われる。一方で「3時間の家庭学習」に関しては、保護者は概ね肯定的（33）だが、生徒自身は達成できていないという回答が増え（32）、家庭学習への取り組み方について生徒に働きかける必要がある。</li> <li>・「教え方」（10）に対する生徒の評価は昨年より高まっており、保護者の評価（18）も概ね高評価である。一方で「生徒一人ひとりへの働きかけ」に関しては、生徒には昨年より高評価だが、保護者には浸透していないようでもある（18）。保護者へのアピールが必要である。</li> </ul>	
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	・効果的なICT機器の活用、少人数授業・習熟度別授業の充実など、授業改善と授業力の向上に努める。	
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	・上記の重点目標をテーマとした校内研修を実施していく。過去のAL型授業の研究を元に、今年度導入されるタブレット端末等の活用を進める。	
6 目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
(1) 少人数・習熟度別授業の実施、評価方法の研究と改善 (2) 目標自宅学習時間3時間以上の達成 (3) (1) (2) を実現させるよう教科会・研修会を充実させ、授業力・教育力の向上 (4) タブレット端末などICT機器を活かした効果的な授業方法・評価方法の研究	(1) 生徒・保護者による授業評価および授業に関するアンケート (2) 生徒の宅習時間調査の結果 (3) 生徒懇談、保護者懇談会等での意見吸収 (4) 単位未修得者数、定期考査、対外模試での成績評価 (5) 学習指導委員会や教科研究会での評価・反省	
8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価
<ul style="list-style-type: none"> <li>・タブレットを初めとするICT機器を活用した授業をさらに充実させる。</li> <li>・全教科において前期終了時に授業評価の実施</li> <li>・自宅学習時間3時間以上を目標として授業内容、課題を設定。</li> <li>・共通テストや新学習指導要領を見据え、各教科で効果的な評価方法を検討する</li> </ul>	①各教科内で活発に授業参観が実施され、研究授業後の教科研究会が有意義なものとして実施されたのか ②授業評価結果が授業改善へと活かされているのか ③自宅学習時間が目標の3時間を超えたか（宅習時間調査） ④評価の研究ができたか	A (B) C D  A (B) C D  A B (C) D  A (B) C D
11 成果・課題	○ICT機器の導入により、授業の改善が進んでいる。各教科で活用方法の工夫を重ねほとんどの教員がPCやタブレットを使用した授業を行っている。 ○全職員が担当2クラスで生徒による授業評価を実施し、授業の客観的評価と改善に繋がった。 ▲自宅学習時間調査では学年が上がるにつれ家庭学習3時間以上の割合が下がっている。文武両立達成のためには上級学年での意識付けが課題である。 ▲少人数・習熟度別授業の利点を活かし、生徒一人ひとりが実力を伸ばすことが出来るような授業のあり方・進め方を検証し、さらなる授業改善を進める。	
12 来年度に向けての改善・方策案	単位制も定着し、生徒一人一人の進路希望に応じたカリキュラムが完成しつつあるようだ。これまでの多治見高校の教育のあり方の良い部分を継承しつつ、改善すべきは思い切って改善し、より生徒のためになる授業の追究について模索を続けていきたい。個々の教員の教育力や授業力をこうじょうさせ、職員が一丸となって多治見高校を盛り上げていきたい。	

# 令和3年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

岐阜県立多治見高等学校

学校番号 43

## I 自己評価

1 学校教育目標	自ら未来を切り拓き、社会に貢献できる人物の育成 (1) 一歩前に踏み出す行動力 (2) 粘り強い探究力 (3) とともに高め合う協働力	
2 評価する領域・分野	◇進路指導部	
3 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	「進路支援」に関して、学年別の結果も踏まえ分析を行った。 ・「進路支援」では、希望に沿った指導がなされていると肯定的評価した生徒・保護者が70%と多く、A評価も3~4%上昇し、概ね良好である。進路情報の提供についても肯定的評価が保護者85%、生徒72%と昨年度よりそれぞれ2~9%上昇し、しっかり対応していることが評価に繋がっていると考えられる。今後も生徒・保護者の抱えている不安を取り除けるよう情報提供しながら、担任による適切な進路指導、支援を行っていききたい。 ・「サタスタ・補習」に関する項目での評価は、肯定的評価が生徒（R1 40%、R2 45%、R3 54%）・保護者（R1 50%、R2 52%、R3 55%）で年々上昇し、否定的評価は減少し改善されている。今後さらに生徒の進路実態に応じた補習のあり方を検討していく必要がある。また、今後も登校できないような状況に備え、自宅学習支援教材の有効的な活用方法の検討も急務である。 ・「進路行事」では、外部講師による講演会の実施などを通して進路決定に役立っていると捉えている生徒、保護者が70%を超し一定の役割を果たしていると考えられる。しかし、A評価だけをみると生徒25%に対して保護者13%と低く、授業以外での体験の場が少ないと感じていることが窺える。体験学習等の機会を積極的に設け、充実を図りたい。 ・「探究学習（探究ゼミ）」では、67%の生徒が肯定的評価で、「地域課題探究型学習（ふるさと教育）」を進めてきた3年間の成果である。入試でもこの成果を活用し評価する大学も増えている。この成果を利用して受験する生徒もおり、生徒の進路に直結する取り組みであることが認識され、有意義であるという評価につながった。	
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	◇生徒一人一人が主体的に進路選択し、高い志とチャレンジ精神により進路志望を実現していくための指導と支援に努める。	
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	・進路指導部会での情報交換・協議を通して意思疎通を図り、協力体制での進路指導を推進する。 ・進路情報の収集と速やかな情報提供、情報共有を進めるため、他分掌や学年、教科との連携を図り、全校体制での指導を推進する。	
6 目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
(1) 校内における進路目標（国公立大学45、難関大学5合格）を設定し、達成に向けて、生徒一人一人の主体的な進路選択と自己の高い志とチャレンジ精神による進路志望を実現していくための支援を行います。 (2) 卒業生、保護者、地域、大学等との緊密な連携や協働によるキャリア教育を実践し、キャリア発達や進路志望を実現する上で必要な学力、探究力、基本的・汎用的能力の伸長と進路意識の高揚を図る支援を行います。 (3) 「課題探究型学習」の実践を通して、「ふるさと教育」に係る取組を推進し、学習した内容を応用したり他者と協働することを重視するとともに、自己の可能性や社会的役割を自覚できるような機会を提供します。	(1) 模擬試験や入学試験の結果で評価します。また、①生徒の希望に沿った進路指導、②一人一人の能力に応じた指導、③サタスタや夏期補習に関する項目の生徒及び保護者アンケートで評価します（AB評価 ①生徒70%以上、保護者80%以上②70%以上、③50%以上）。 (2) 各行事に対する生徒アンケートの結果で評価します（満足度80%以上）。また、「進路情報の提供」、「講演や体験学習など授業以外の学習の機会」に関する生徒及び保護者アンケートで評価します（満足度80%以上、AB評価 生徒70%以上、保護者80%以上）。さらに、「進路行事」に関する生徒及び保護者アンケートで評価します（AB評価 生徒・保護者70%以上）。 (3) 「探究ゼミ」に関する生徒アンケート（AB評価50%以上）や外部からの評価（コンクール等への参加）で評価します。模擬試験や入学試験の結果で評価します。「生徒の希望に沿った進路指導」に関する生徒及び保護者アンケートで評価します。（AB評価 生徒70%以上、保護者80%以上）	

8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価
(1) 生徒一人一人の高い志とチャレンジ精神による進路選択とその実現のための支援 (2) 進路説明会や講演会の実施と外部機関との連携や外部講師の活用 (3) 模試の分析および補習・サタスタにおける効果的指導の工夫 (4) 多様な入試への対応と速やかな情報提供 (5) 「地域課題探究型学習」の推進	(1) 学校の進路の数値目標達成 (2) 生徒の実態に応じた事業推進とアンケートによる満足度 (3) 生徒・保護者の評価結果 (4) 情報の共有と生徒・保護者の評価結果 (5) 生徒による評価と外部評価	A B <b>◎</b> D A <b>◎</b> C D A <b>◎</b> C D A <b>◎</b> C D <b>◎</b> A B C D
11 成果課題	<p>○2年生の探究ゼミは、学年団を中心に生徒・教員共に活発な運営が行われ、地域との連携や外部機関との連携が推進できた。受賞する取組も増え、外部にも高い評価を得られるようになり、年々成果として現れてきている。</p> <p>●「総合的な探究の時間」におけるゼミ学習では、各教員間で指導に差がある。統一した運営が必要である。</p> <p>○コロナ禍で制約の多い中、オンラインによる外部講師による講演会や、保護者説明会の実施となった。しかし、保護者からは会場までの移動時間もなく参加しやすい等の意見があり、好評であった。一方で学校での実施を望む声も一部あり、保護者にとって必要とする進路に関する情報提供の場となっていることから、より効率的、効果的な開催方法を考えていく必要もある。</p> <p>●生徒・保護者アンケートにおいて「わからない」と回答している割合も一定数見られることから、「さか草」（進路だより）やホームページで成果を発信することが必要である。</p> <p>●模試の指導が徹底できていない。</p>	総合評価  A <b>◎</b> C D
12 来年度に向けての改善方策案 ①早期（低学年）指導により基礎学力の定着を図るとともに、生徒の実態に応じた進路指導の推進と求められる学力を発揮できる生徒の育成に努める。 ②国公立大学の総合型選抜・学校推薦型選抜への意識付けと、地方の国公立大学の魅力を紹介する取組を導入する。 ③1年生の「総合的な探究の時間」の内容の見直しと、2年生の探究ゼミによる地域連携型の取り組みを継続し、新たな連携を模索するなど「ふるさと教育」を推進する。そのために、ゼミの指導に当たる教員間の統一した動きを作るための打合せを定期的に行う。 ④生徒の進路実現に向けて、多様な入試への対応と全校体制による指導の必要性を認識し取り組む。 ⑤進路講演会や外部講師による特別講座、大学別入試説明会等の実施による生徒の進路意識を高めるための働きかけを工夫する。 ⑥サタスタ（土曜補習）については見直しを行い、Classiを活用しての取組となる。補習の代替として運用することになるが、実施方法を工夫して多くの生徒が自分に合った学習を進められるようにし、個別対応による学習支援と進路支援を行う。また、サタスタで取り組んでいた模試対策について、教科ごとで模試に向けた指導を考えるように促す。		

# 令和3年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

岐阜県立多治見高等学校

学校番号

43

## I 自己評価

1 学校教育目標	自ら未来を切り拓き、社会に貢献できる人物の育成 (1) 一步前に踏み出す行動力 (2) 粘り強い探究力 (3) とともに高め合う協働力		
2 評価する領域・分野	◇生徒指導（教育相談）		
3 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・多くの項目において肯定的評価を継続的に受けている。特に生徒評価では全ての項目で過年度より良い評価であった。落ち着いた学校生活や生徒の姿が数値に現れている。</li> <li>・教育相談体制は外部的に評価されにくいだが、相談や問題への早期対応、SCや外部連携など組織的かつ機能的に対応できている。</li> </ul>		
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・主体的な判断や活動の促進と規範意識の高い生徒の育成。</li> <li>・生命尊重と安全意識の高揚、交通事故防止。</li> <li>・教育相談体制をはじめとした組織的対応の充実。</li> </ul>		
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	<ul style="list-style-type: none"> <li>・報告・連絡・相談の連携と生徒情報の共有、共通理解による指導。</li> <li>・外部連携を含めた教育相談体制の充実と学年会や他分掌との連携。</li> </ul>		
6 目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標		
(1) 挨拶励行、身だしなみ確認週間、遅刻防止情報モラル指導、MSL活動 (2) 交通安全(登下校)指導、自転車点検、不審者対策、薬物乱用防止講話 (3) スクールカウンセリングと教育相談講話。いじめを許さない姿勢と早期発見・組織対応	(1) 育友会、生徒の評価アンケートなど (2) 統計による内容と頻度の年度比較 (3) 生徒と職員の評価		
8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・継続的な生活習慣指導、外部機関と連携したMSL活動、輪番での身だしなみ指導</li> <li>・新入生の通学路ハザードマップ作製、月2回交通安全登校指導、不審者情報と注意喚起</li> <li>・臨床心理士の定例スクールカウンセリング、教育相談講話、いじめ問題への早期対応</li> </ul>	(1) 生徒の主体的な取り組みと全職員の協力体制による継続的指導 (2) 各種統計の年度比較 (3) 生徒、保護者の評価、意見	A   B   C   D A   B   C   D A   B   C   D	
11 成果課題	○生徒指導部が推進している、規範指導、身だしなみ、交通安全、情報モラル、あいさつ等の指導が生徒意識に定着しており、落ち着いている。 ○教育相談では、不登校やいじめなどの問題に担任と協力して積極的に関与している。SCや外部機関とも連携し、細やかな支援をおこなっている。 ▲生徒心得の見直しにより、生徒・教職員共に誤認があり、混乱を招いた。 ▲自己不安を抱く生徒増加や問題多様化で担当の負担が重くなっている。		総合評価 A   B   C   D
12 来年度に向けての改善方策案	<ul style="list-style-type: none"> <li>・さらなる生徒心得の見直し(改善)により、より生徒に主体的な判断や行動、規範意識を求めるとともに、教職員の共通理解を徹底する。</li> <li>・職員が報告・連絡・相談(ほうれんそう)による情報共有と生徒指導、教育相談、特別支援を意識した組織的対応や共通行動、統一指導できる体制の更なる充実。</li> <li>・いじめ問題には常に危機感を持ち、いじめ防止基本方針の理解といじめ防止対策推進法に基づいた対応の徹底。</li> </ul>		

# 令和3年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

岐阜県立多治見高等学校

学校番号	43
------	----

## I 自己評価

1 学校教育目標	高校生活のあらゆる場において、ひたむきに自己の可能性を追求できる、視野の広い、心豊かな青年を育成する。		
2 評価する領域・分野	◇特別活動部		
3 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	<p>生徒を対象とする学校行事に関するアンケート結果について「本校の学校行事（桔梗祭、スポーツ交流大会、球技大会など）は充実している」という項目で悪化がみられる。新型コロナウイルスの影響により、多くの学校行事が中止となったことを考えれば当然の結果である。特に今年は、スポーツ交流大会も桔梗祭も、実施できそうな状況で準備を進めていた矢先の中止となったため、生徒の落胆の度合いも大きかった。球技大会はどうか実施できたものの例年通りとはいかず、実施競技は制限され、全校体制ではなく学年単位による実施となった。コロナ下で工夫を凝らして実施したわけだが、生徒に十分な満足感を与えることはできなかった。</p> <p>保護者を対象とする学校行事に関するアンケート結果については、昨年と比べて大きな変化は見られなかった。コロナ禍で学校の教育活動を見学する場もほとんどなくなってしまったが、学校行事を中止せざるを得ないこの状況をやむを得ないことであると理解していただいている結果だと思う。</p>		
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	文武両立を通した生徒一人一人の自主性の育成と、地域において活躍・貢献できる人材の育成		
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	<ul style="list-style-type: none"> <li>・特別活動部会での協議を通して、意思疎通を図り、協力して取り組む。</li> <li>・部活動・委員会活動の活性化のため、他分掌や学年、教科との連携を図り、協力体制を充実させる。</li> </ul>		
6 目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標		
(1) 生徒が達成感や満足感を感じられる行事になるように活動しやすい環境を整えることで、高い志とチャレンジ精神で臨み、夢を実現できる力の育成に努めます。	(1) 各行事に対する生徒アンケートで評価します。（満足度85%以上）		
(2) HR活動・生徒会活動・部活動等、生徒の自治活動を支援することにより、生徒の自主性や自立心及び人間関係形成能力を育てます。	(2) 生徒及び保護者アンケート調査で評価します。（A・B評価70%以上）		
(3) 学習とともに部活動への積極的な参加を促すとともに、特別活動や生徒会活動を通じて、生徒の自己有用感を醸成し、集団や学校への帰属意識を高めるように努めます。	(3) 生徒及び保護者アンケート調査の「学習と部活動の両立」の項目、LHRの実施状況報告、生徒アンケート（満足度80%以上）、部活動の加入状況及び活動状況、成績等、委員会の活動実績で評価します。		
(4) 地域行事等の機会を利用した貢献活動（ボランティア活動等）への積極的な参加を推進し、思いやりの心・進んで奉仕する心を養うことで、心豊かな生徒の育成に努めます。	(4) ボランティア活動への参加者数や生徒の活動報告、生徒及び保護者アンケート調査で評価します。（A・B評価60%以上）		
8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価	
(1) 充実した生徒会行事の企画・運営	(1) 行事ごとのアンケート	A B <input checked="" type="radio"/> D	
(2) 学校活性化のための生徒からの提案	(2) 生徒会の活動状況と感想	A B <input checked="" type="radio"/> D	
(3) 部活動加入状況・活動状況調査	(3) 部活動・委員会の活動取組実績	A <input checked="" type="radio"/> C D	
(4) 対外的行事等への参加促進	(4) 参加状況・取組状況	A B <input checked="" type="radio"/> D	
11 成果課題	<p>○部活動実施についての制限があつたにもかかわらず、生徒は満足感・充実感をもって取り組んでいるようだ。保護者の評価も高かった。顧問や部員の努力のおかげである。</p> <p>○昼食時は前を向いて黙食となっており教室があまりにも静かなため、放送委員による音楽の放送が癒しとなっている。</p> <p>●行事自体が中止や延期となり、例年と同じ基準で評価はできない。</p>		総合評価 A B <input checked="" type="radio"/> D
12 来年度に向けての改善方策案	<p>・新型コロナウイルスの影響により学校行事の開催自体がどうなるのかまったくわからない。様々な制限がある中で行事の実施について考えていかなければならない。</p>		

# 令和3年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

岐阜県立多治見高等学校 学校番号 43

## I 自己評価

1 学校教育目標	自ら未来を切り拓き、社会に貢献できる人物の育成 (1) 一步前に踏み出す行動力 (2) 粘り強い探究力 (3) とともに高め合う協働力	
2 評価する領域・分野	◇保健厚生 「保健管理」 「安全管理」	
3 現状、生徒及び保護者等を対象とするアンケートの結果分析等	防災対策マニュアルの周知について、肯定的回答は生徒59%、保護者73%であった。生徒は、肯定的意見は例年と同水準にある。命を守る訓練や保健指導を活用し周知を図るとともに、災害について危機感や関心自体を高めていくことが必要。 校内美化等について、肯定的回答は生徒69%、保護者62%であった。例年並みではあるが、以前まで50%を下回っていた生徒の校内美化についての肯定的回答が増加したことは評価できる。ただ、自分たちが毎日生活し、毎日清掃している環境に対し、依然30%近い生徒が「清掃がいきとどいている」と回答できないことは引き続き課題である。今年度、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、命を守る訓練や廊下掃除など昨年まで通りの取り組みは行えないものもあったが、次年度にはコロナ禍でも校内美化や防災への意識が高まるよう様々な活動や取り組みを実施していきたい。本校では、掃除の必要箇所が多く、生徒・教員ともに人員の配置が足りていない現状もある。体育館や外など掃除時間以外での活動も啓発していくことも課題である。	
4 今年度の具体的かつ明確な重点目標	・生徒が自分の健康に関心を持ち、自己管理できる能力を育成する。 ・研修や訓練を通して万全な危機管理態勢を整える。 ・清掃活動を通して奉仕の心を育て、清潔で快適な環境を整備する。	
5 重点目標を達成するための校内における組織体制	・職員・生徒の救急救命研修、3回の命を守る訓練を計画・実施する。 ・年4回の安全点検を実施し危険・修繕箇所を把握し、事故災害等の発生しにくい環境を整える。 ・毎日の清掃に加え、季節や行事に合わせて大掃除を実施する。	
6 目標の達成に必要な具体的な取組	7 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
(1) 命を守る訓練や救急救命講習の実施 (2) 危機管理の徹底と職員間の報告・連絡・相談の充実 (3) 廊下・階段の重点清掃や大掃除の実施。	(1) 本校職員、講師による評価 (2) 生徒及び保護者の学校アンケートによる評価 (3) 生徒及び保護者の学校アンケートによる評価	
8 取組状況・実践内容等	9 評価視点	10 評価
(1) 1年生と職員に救急救命講習、3回の命を守る訓練の実施。 (2) 年4回定期考査時の安全点検の実施、改善箇所のまとめ。 (3) 廊下・階段の重点清掃と美化委員会活動。	(1) 講習、訓練時等の様子 (2) 安全点検の報告・まとめ (3) 生徒アンケート・点検	A B <b>(C)</b> D A <b>(B)</b> C D A B <b>(C)</b> D
11 成果・課題	●新型コロナウイルス感染症拡大防止のため1年生と教職員への救急救命講習の中止。 ▲校内美化に関するアンケートでは、肯定的意見が決して高いとは言えず、引き続きの課題である。	
12 来年度に向けての改善方策案 生徒ひとりひとりの校内美化の意識を高め、掃除の徹底を図る。日々の清掃の意識を高めたい。ひとりひとりが「いつ災害がおきてもおかしくない」、それぞれが命を守る行動がとれる危機感、意識・関心を高めることが必要。 コロナ禍での救急救命講習や防災教育などの実施について要件等。		
		総合評価 A B <b>(C)</b> D